【連載】

この国の医療を変えるには…

<第 82 回>

“失明すると言われて、うれしかった”
――弱者に寄り添う医療の不在

隈本邦彦(くまもと くにひこ)
江戸川大学メディアコミュニケーション学部教授
名古屋大学客員教授
元 NHK 報道局記者

2020 年2月5日午後、参議院議員会館で行われた院内集会[註]「HPV ワクチン 知ってください！わたしたちの今」で、ワクチン被害者のひとり、森あかねさん（仮名）が壇上でその体験を語った時、会場はしんと静まりかえってしまった。

眼科医から、「あなたの右眼は失明していて、もう視力は戻らない」と告げられた時、「心からうれしかった」というのだ。

註：国会議員が参加しやすいよう、国会開会中に議員会館の会議室で開く集会のこと
国会で議論になっているような問題の当事者が開催することが多い。

絶望して泣いている母親の隣で、診断された患者本人は、“心からうれしかった”という常識的にはありえない状況。なぜそんなことが起きたのだろうか。

当日のあかねさんの話を少し前から紹介しよう。

★森あかねさんの話

体験を語る森あかねさん

診てもらえる病院が少なくて困っています。

私が実際に経験した話でいうと、痛みや生理不順で2年近く診てくれていた産婦人科の先生に、「子宮頸がんワクチンの副反応だと診断された」と話をしたら、「ウチではもう診れません」と、急に診療を断られました。

そのほかにも、ある時から右眼の視力がどんどん落ちていき全く見えなくなってしまったので眼科を受診し、ワクチンの話をすると「いやいや、ワクチンの副反応だって？ 聞いたことない、ありえない。演技なんじゃないの？ 嫌なことでもあったんじゃないの？」などと言われ、ろくに検査もせず声に出して笑われながらバカにされました。

その後、同じ病院の違う先生に診てもらうことになり、検査の結果、

「ひどい緑内障の人と同じレベルの視神経炎があり、これは失明していて、もう見えるようになることはない」と言われました。

私はこのワクチンを受けて、失ったものがたくさんあります。

高校にももっと通いたかったし、大学にも進学したいと思っていました。友達と出かけたり、好きなこと＝10代や20代だからできること＝をもっともっと沢山したかったです。学校も学校行事もまともに参加できませんでした。現在私は23歳です。私の友人のほとんどの子が就職しています。体調が悪いとはいえ、皆が頑張っている中、私は家でじっとしていなければならない、ということに罪悪感を覚えます。自分のせいで家族に迷惑をかけてしまっている。私は何もできない人間だ。そんなことを思ってしまう日があります。「新しい服を買ったら？」と聞かれても、何もしていない私がそんなことをしていいのか？　若い女の子っぽく、タピオカ！カフェ！・・・私なんかが楽しんでいいのか、そんなことを思って、ためらってしまうことが多々あります。ワクチンの話を友人や、知人にしても、「え？　なにそれ、結局サボっているんじゃないの？　ニートは楽でいいね」、「前にテレビで精神的なものって言ってたけど？」、「ネットで調べてみたら、嘘って書いてあったよ？」――そんなことを言われたことも何回もあったからです。

勇気を出して話してもこのように誤解されてしまう。 信じてもらえない。このことが本当に辛いのです。 病院で「何でもない」と言われれば、友

人だけでなく、家族ですら私の言うことはほんとうなのかと疑い始めます。

この信じてもらえないということが、どれだけつらかったかというと、眼科の先生に、「あなたの右目は失明していて、今後見えるようになることはないでしょう」と診断を受けたとき、「もうこの診断のおかげでもう嘘つき呼ばわりされない、みんなに信じてもらえる、指をさして頭がおかしいと笑われることもなくなる」――そう思って心から嬉しくてたまらなかったほどでした。娘の右目がもう一生見えないとわかり、号泣する母の横で、その眼科医に、「私の眼の痛みも、眼が見えないことも嘘でないと証明してくれてありがとうございます！」と心から御礼をしました。

それぐらい分かってもらえないこと、信じてもらえないことが私を追い詰めていたのです。

あかねさんと最初に会ったのは、筆者が参加している市民団体「HPV ワクチン東京訴訟支援ネットワーク」が 2019 年 11 月に横浜市で開いた学習会。そこで彼女からこの体験を聞いた時の衝撃は今でも忘れられない。

片眼が一生見えなくなるという診断を聞いてそれを“うれしい”と感じる人がいったいこの世のどこにいるだろうか。それほど世間や医療者の対応に傷つき、苦しんでいたのだ。

院内集会で、彼女はさらに話を続け、次のように結んだ。

★森あかねさんの話（続き）

HPV（子宮頸がん）ワクチンを打った結果、私は健康を失い、見た目ではわからないたくさんの症状を抱え、テレビやネットでは嘘つき扱いされます。さきほど、弁護団による生活実態調査でもあったように、根本的な治療はまだありません。また対症療法を受けても効果が得られない人も多く、そもそも、その対症療法でさえ受けることができないという被害者もたくさんいます。私のように苦しむ人をこれ以上増やしたくない、と心から思います。そのために多くの方にこの現状を知っていただきたい、これが私の願いです。私の、私たちの心の叫びが、どうか意味のあるものになることを願います。

ありがとうございました。

2020 年 2 月 5 日の院内集会の様子

森あかねさんの当日の話の一部を聞くことができます。再生ボタンをクリックしてお聞きください。

■ワクチン接種後の壮絶な体験

あかねさんは9年前、中学2年の終わり頃に HPV ワクチンを接種した。

それまでは器械体操が得意な活発な少女だった。1度目の接種直後からひどい頭痛に悩まされるようになり、中学校の廊下や教室で、たびたび失神するようになった。痛みは、頭だけでなく、腰や肘、膝、指など全身のありとあらゆる関節に広がっていった。

ピアノも上手で毎日のように弾いていたのに、まったくそれができなくなった。それどころか牛乳の紙パックも持つのが大変な状態になったという。階段の上り下りの途中、痛みで意識が遠のく、という体験もした。

多くの HPV ワクチン被害者が共通して訴える「記憶障害」も起き始めた。自分の苗字が思い出せなかったり、ついさっき起きたことを忘れてしまったりするようになった。

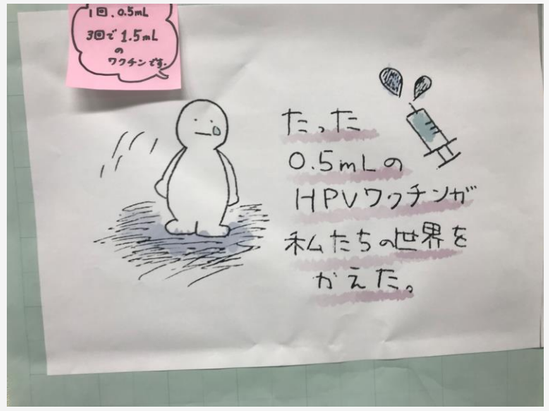
眼の症状が出始めたのもこの頃だ。眼がかすんだり、視界が上下に揺れて見えたり、左右で明るさが違って見えたりするよう

になり、視力が落ちていった。

そして2度目の接種の後、左半身の不随意運動が起きはじめた。

大学病院などで様々な検査を受けたが、特に病気は見つからない、心配はないと言われた。でも突然手足の力が抜けて物を落としたり、急に足の力が抜けて座ることもできなくなったりする症状は続いた。

記憶障害は次第に悪化、自分の苗字や名前だけでなく、生年月日や好きな物も思い出せない、同じ単語を 1,000 回書いても覚えられないようになったという。そんな症状を医師に相談したが、ワクチンとは無関係だからと言われ、そのまま3度目の接種を受けてしまった。そのことを後悔しているという。



あかねさんが書いた絵

高校に進んでからは症状がさらに進んだ。なんとか車椅子で学校に通えた日も、結局保健室で過ごす時間が長かった。

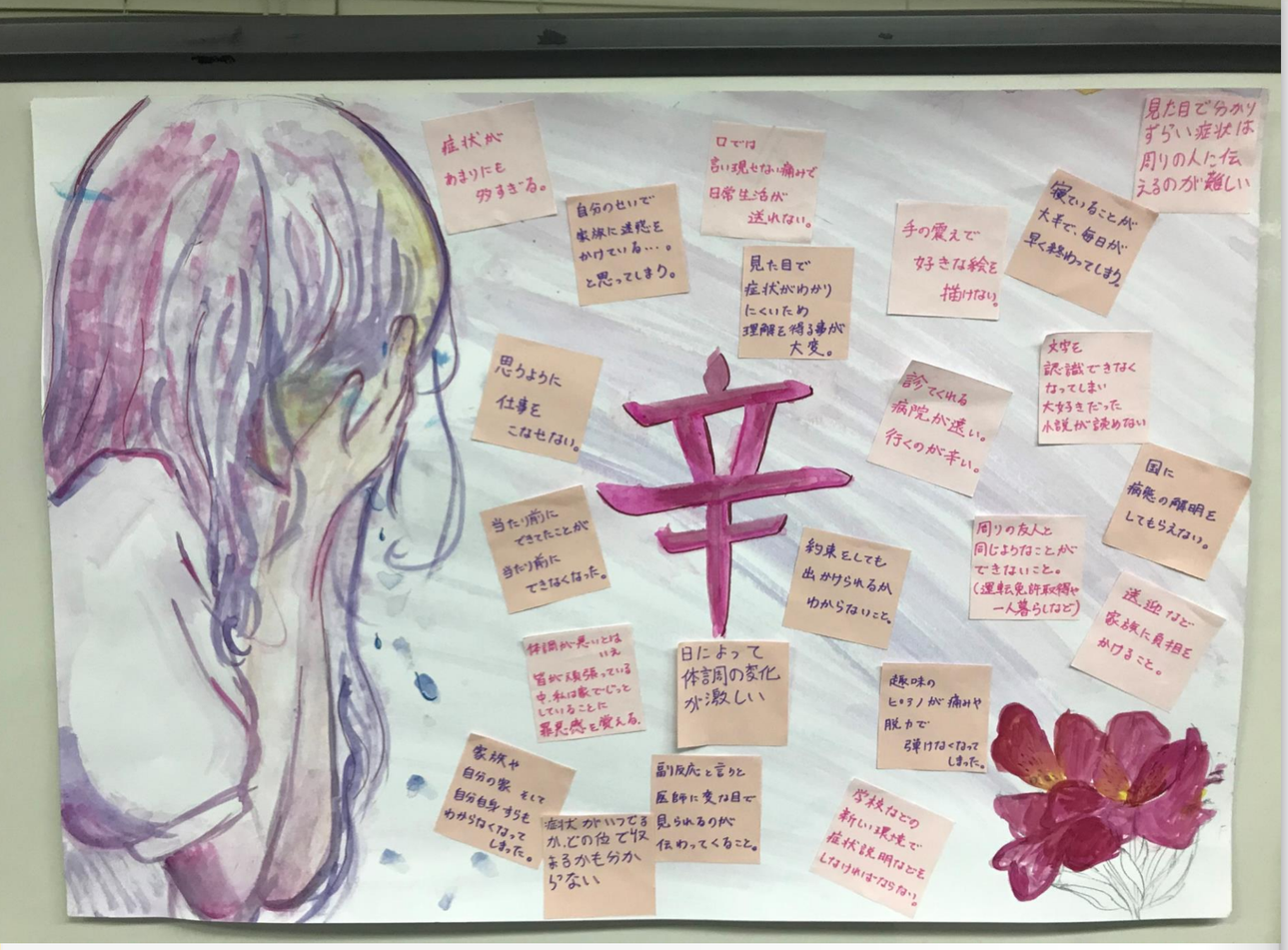
そして高校2年の秋、ようやく HPV ワクチン被害者を丁寧に診察してくれる医師に出会った。HPV ワクチンに関連した「高次脳機能障害」と診断され、脳の炎症を抑える治療が受けられるようになった。

その治療が奏功したのか、あかねさんの症状は最近かなり改善してきた。しかしやはり今でも体調には大きな波があるという。

この日の院内集会ではしっかりと自分の足で歩き、まっすぐ前を向いて壇上で訴えを述べることができた。ただそれは体調をこの日に合わせて調整してきたためで、痛みやしびれ、振るえなどはいつもあり、不随意運動や失神もあいかわらず起きているという。

発表の後、がんばったねと声をかけると、「この発表原稿も5回失神しながら書いたんです」と自嘲気味に笑っていた。

少し長い文を読んだり書いたりすると、頭痛や吐き気を催して失神してしまい、失神した前後の記憶が飛ぶのだという。文字通り、苦心惨憺の上での訴えだったのである。



あかねさんが書いた絵・被害の実態が短い言葉で表現されている

■訴えは議員たちの心に届いたか

この日の院内集会には自民党から共産党まで21人の国会議員と、5人の地方議会議員、45人の議員秘書らが参加してくれた。

彼らや彼女たちの心にも、きっとあかねさんの訴えが届いたと信じたい。

国会議員の挨拶の中には、自分が議員になる前のアナウンサーだった頃に、“HPV ワクチンが非常にいいものだと思って、ラジオで推奨する番組を作ってしまったことを後悔している”とか、“市長時代に強く推す政党に押し切られ、たくさんの少女に接種を勧めてしまったことをとても反省している”という言葉があった。

会場におられたジャーナリストで国際医療福祉大学教授の大熊由紀子さんが、“懺悔する国会議員”というタイトルで速報してくださったが、まさにそんな雰囲気だった。

■医療者のあるべき対応とは

HPV ワクチンの有効性と安全性には重大な問題があると筆者は考えている。それを示唆するいくつもの科学的データがあり、査読付きの論文があり、公式に報告されている重篤副反応発生率も、他の定期接種ワクチンに比べて群を抜いて高い。

しかし日本の医療者の多くはそう考えていない。たいして勉強もせず、論文も読んでいない彼らの多くが、「ワクチンの重篤な副反応？　ああ、それはマスコミが作りだした“副反応騒ぎ”にすぎないよ。HPV ワクチンの安全性には WHO や日本産科婦人科学会のお墨付きがある」と考えている。

だから、ワクチン接種後に何かの症状があって医療機関を訪れても、そんな医師たちに診察されてしまう確率が高い。そして、あかねさんが体験したような、心ない対応に遭遇してしまうことになるのである。

そもそも自分の知らない病気、医学会がまだ正式に認めていないような病気の症状を訴える患者が目の前に来たとしたら、医師はどのような態度を取るべきだろうか。

本来なら、患者の訴えを真摯に聞き取り、どのような可能性があるのか、もしかしたら新しい病気なのかもしれないと考え、何か治療法はないだろうかと真剣に探索するというのが、あるべき姿だろう。

しかし過去の薬害事件や公害事件で、ほとんどの医師たちは、そのような対応はしなかった。多くは、そんな病気はない、とばっさり切り捨てるか、おそらく精神的なもの、心の問題なのではとか、新たな感染症とか遺伝性疾患とか、いずれにしても患者自身の問題に帰結させるような対応をしがちなのである。

整腸剤キノホルムとスモンとの関係がはっきりするまでの、スモン患者への医師の対応はそうだったし、チッソ水俣工場の廃液との関係がはっきりするまでの水俣病患者に対する医師の対応もまさにそうだった。

その結果、スモン患者たちは謎の“伝染病”という決めつけをされ、病院での突然の隔離や診療拒否、就職差別、結婚差別などで地域社会からの締め出しにあい、自殺者が相次いだ。水俣病の患者たちも公害裁判で勝利するまで、多くの人が詐病や仮病のそしりに耐えつづけた。

HPV ワクチン薬害では、さらにそれに加えて、被害者たちはSNSなどを通じて「被害をねつ造する非科学的な反ワクチングループ」というバッシングを受けている。そして、その影響もあって、あかねさんのように医師によってさんざんあざ笑われバカにされるという、あってはならない経験をしている被害者が多くいるのである。

薬害による二重三重の被害と言ってもいいだろう。

■院内集会に参加した議員にもバッシングが

この日の院内集会をめぐっても、こんな出来事があった。

歯科医師を名乗る人物が、院内集会に参加した国会議員の名前のリストをネット上に晒したツイートを引用し、「燃やしてくださいっ！！」（彼らを炎上させてほしい）と書き込んだのである（右頁画像参照）。ワクチン推進派が、寄ってたかって「非科学的な反ワクチン議員」としてバッシングすることを意図したものだ。出席議員リストを見て「がっかりしました。情報リテラシーが低いのでは」とツイートした区議会議員もいた。

こうして名前を晒された国会議員が自身のブログにこんな意見を載せていた。

＜すぐに色分けする社会、魔女狩りは現代に生きている――

先日、子宮頸がんワクチンの副反応被害を巡る院内集会に出席したところ、Twitter でいきなり有無を言わせぬ批判の対

（歯科医師） 2時間前
@mph_for_doctors @hagamichiya @my_fc1 @shinatakeshi @michishitadaiki @nodakuniyoshi @takashinagao @Shin1Miyakawa @pontapiranao 【HPVワクチン反対派集会参加議員一覧③】
阿部知子@abe_tomoko 立憲 衆 神奈川12区←医師
尾辻かな子@otsujikanako 立憲 衆 比例近畿
高橋千鶴子@chiduko916 共産衆 比例東北
福島瑞穂@mizuhofukushima 社民 参 比例
川田龍平@KawadaOffice 立憲 参 比例

燃やしてくださいっ…！！
posted at 18:02:12 削除

（歯科医師） 2時間前
@mph_for_doctors @hagamichiya @my_fc1 @shinatakeshi @michishitadaiki 【HPVワクチン反対派集会参加議員一覧②】
野田国義@nodakuniyoshi 立憲 参 福岡
長尾敬@takashinagao 自民 衆 大阪14区
宮川伸@Shin1Miyakawa 立憲 衆 比例南関東
神谷裕 立憲 衆 比例北海道
舟山康江 無所属 参 山形
本多平直@pontapiranao 立憲 衆 比例北海道
岸真紀子 立憲 参 比例
posted at 18:00:30 削除

（歯科医師） 2時間前
@mph_for_doctors 【HPVワクチン反対派集会 参加議員一覧①】
芳賀道也@hagamichiya 国民 参 山形
青山雅幸@my_fc1立憲→無所属 衆 比例東海
階猛@shinatakeshi 国民→無所属 衆 岩手１区
田村麻美 国民 参 比例
矢田稚子 国民 参 比例
道下大樹 @michishitadaiki 立憲 衆 北海道１区
松田功 立憲 衆 比例東海
posted at 17:59:09 削除

象として名前を晒された。誤解されぬよう予め説明すれば、私は原理的ワクチン否定者ではない。（中略）このワクチンには2つの強い疑問があるため、副反応被害者を応援したく、集会に

出席しただけのことに対し、(当日もその旨の挨拶をしている)現在のワクチンに対して危険だからやめた方がいいと頭から反対しているかのように晒され「燃やそう」と呼びかけられたのだ。

Twitter が短文の投稿ツールなので一方的でエビデンスも理性もないのはいつものことだが、呆れると共に全体主義的な怖さを感じる。**魔女狩りは現代にも生きている**＞

症状を訴える薬害患者に寄り添うどころか、バッシングに勤む医療者たち。改めて、医療に携わるものとしての良心に目覚めてほしい。

「医療・看護事故の真実と教訓」
隈本邦彦著
A5 判 2,400 円＋税

＊単行本
http://lifesupport-co.com/order04/books.html
＊電子版
http://www.shinanobook.com/genre/book/218